

ウトナイ湖で巣立ちした オオハクチョウ *Cygnus cygnus* の追跡

村上速雄¹⁾・五十嵐真²⁾・中村聡²⁾・廣島潤子³⁾

1) 日本鳥類標識協会会員 〒053-0042 北海道苫小牧市三光町 3-11-21

2) 日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ勤務, 3) ウトナイ鳥獣保護センターボランティア

1. はじめに

北海道苫小牧市植苗ウトナイ湖(北緯42°42', 東経141°42')で2003年からオオハクチョウ *Cygnus cygnus* 1番の繁殖が報告され(川崎 2003), その後同 1番が2008年まで6年間連続して繁殖した. 2003年には 2羽の雛が巣立ちしたが, その後の雛の動向は個体識別がなされていないため, ウトナイ湖に春と秋に渡ってくる多数のオオハクチョウの中に混ざってしまい不明であった. そこで2004年から, 巣立ち雛に個体識別ができるように環境省の標識調査用の金属足環と視認性のよいカラープラスチック製首環と足環(山階鳥類研究所提供)をつけ, 観察による追跡調査を2004年12月から2010年3月まで試みた. これらの標識調査許可は環境省の第1365号(2004), 第1379号(2005), 第02-0302号(2006), カラーリング学術調査許可は環境省の第02-0247, 02-0248, 02-0249号(2007)の許可を受けて行った.

2. 調査方法

幼鳥への標識は当年の9月から12月に適時行った. 捕獲後は足環の装着と各部の計測(翼長, 尾長, 跗蹠長, 露出嘴峰長, 全長, 半翼開長^{注1)}, 体重)を行い放鳥した. 放鳥後, 家族との合流を確認してから作業を終了した.

観察はウトナイ湖を中心に最低1ヵ月に1回, 8~10倍の双眼鏡, または, 20~60倍の望遠鏡を用い首環および足環の番号を確認した. また観察した個体は場所と観察日を山階鳥類研究所に報告した.

注1: 半翼開長とは片翼を開いた胸骨中央(体軸の中央線)から開いた翼先端までの測定値(山階鳥類研究所 2009)

3. 結果

表1に繁殖および標識した個体数，表2に各計測値を示す。2004年から2008年までの5年間に計6羽に標識をつけ，その結果138例（うちウトナイ湖以外では14例）の観察例を得た。観察例を表3と図1～4に示す。

表1. ウトナイ湖で繁殖および標識したオオハクチョウの個体数

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	合計
生まれた個体数	2	5	3	4	5	3	22
巣立った個体数	2	3	1	4	0	0	10
標識した個体数	0	1	1	4	0	0	6

表2. ウトナイ湖で標識したオオハクチョウの計測値

金属足環番号 (カラーリング) Ring Number	性 Sex	年齢 Age	自然翼長 Natural wing l. mm	尾長 Tail l. mm	跗蹠長 Tarsus l. mm	露出 喙峰長 Exposed culmen l. mm	全長 Total l. mm	半翼 開長 Wing span mm	体重 Body weight g
15A-00351(なし)	♂	J	582.0	163.0	123.5		1435	1086	11800
15A-00352(なし)	♀	J	558.0	111.0	110.8	91.1	1350	1000	9000
15A-00353(緑5C26)	♀	J	570.0	122.7	112.1	87.3	1290	1002	8456
		SA	577.0	175.0	110.0	95.3	1407	990	8640
15A-00357(緑5C25)	♂	J	570.0	111.2	98.2	92.8	1390	1000	9500
		SA	580.0	180.0	119.6	111.0	1435	1005	8970
15A-00358(なし)	♀	J	555.0	99.1	111.4	85.0	1310	1030	9500
15A-00359(緑5C24)	♀	J	565.0	132.7	91.6	84.4	1340	970	9100
		SA	565.0	155.0	107.9	103.8	1340	1050	7470
平均値 Mean			569	138.9	109.46	93.84	1366	1014.8	9160

標識鳥のウトナイ湖以外での観察記録は，北海道稚内市，長沼町，浦臼町，日高町，千歳市で得られ，北海道外では山形県酒田市で得られた。これらの観察データから本種の季節的な移動について以下にまとめた。

冬季，山形県で確認された例が2羽（首環5C24，5C26）で計8例あった（表1の*1，図2，図4参照）。2羽ともに2007年11月18日から2008年1月16日までに4日間，山形県酒田市最上川河口で足環No. 読み取りによって確認された。その後，2羽とも2008年3月24日と26日にウトナイ湖で確認された。

また冬季，ウトナイ湖以外の北海道内で観察された例が1例あった（表3の*2，図3参照）。首環5C25は2008年10月13日から2009年1月25日までウトナイ湖で確認された後，2月11日に日高町豊郷波恵川で確認された。その後，この個体は再び2月27日にウトナイ湖で確認された。

春季，ウトナイ湖より北方で確認された例が3羽で4例あった。首環5C25は2008年3月25日にウトナイ湖で確認された後，4月5日に長沼町で確認され，4月6日にはさらに北の浦臼町新沼の2ヶ所で確認された（表3の*3，図3参照）。首環N5C24は2008年3月24日にウトナイ湖で確認された後，4月5日と6日に千歳市・長沼町の市町界にある長都

表3. 標識ハクチョウの標識日および観察例

Table 3. Banding and resighting of Whooper Swans

金属足環番号 (カラーリング)	性	年月日	場所	緯度経度
15A-00351 (なし)	♂	2004. 12. 20	B: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		2004. 12~2005. 4	R: 北海道ウトナイ湖	〃
		2007. 9~12	〃	〃
		2008. 4. 14, 21	〃	〃
		2008. 11. 6	〃	〃
15A-00352 (なし)	♀	2005. 10. 10	B: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		X 2005. 10~2006. 4	R: 北海道ウトナイ湖	〃
15A-00353 (緑5C26)	♀	2006. 6. 24	B: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		2006-9~2007. 4	R: 北海道ウトナイ湖	〃
		2007. 11. 18~19	*1 R: 山形県酒田市最上川河口	38. 54N 139. 50E
		2007. 12. 26	*1 〃	〃
		2008. 1. 16	*1 〃	〃
		2008. 3. 26~4. 10	R: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		2008. 10. 17~2009. 1. 25	〃	〃
		2009. 2. 5, 25	〃	〃
		2009. 4. 15~5. 24	〃	〃
		2009. 6. 10	〃	〃
		2009. 10. 12, 16~18, 23, 24	〃	〃
		2009. 11. 5, 17, 24	〃	〃
		2009. 12. 10, 20	〃	〃
		2010. 1. 3, 9	〃	〃
		2010. 2. 14	〃	〃
2010. 3. 4, 6, 11, 14, 17, 26	〃	〃		
2010. 4. 3, 5, 12, 22	〃	〃		
15A-00357 (緑5C25)	♂	2006. 10. 17	B: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		2006. 10~2007. 4	R: 北海道ウトナイ湖	〃
		2008. 3. 25	*3 R: 北海道ウトナイ湖	〃
		2008. 4. 5	*3 R: 北海道長沼町	詳細不明
		2008. 4. 6	*3 R: 北海道浦臼町新沼	43. 24N 141. 48E
		2008. 10. 13~2009. 1. 25	R: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		2009. 2. 11	*2 R: 北海道日高町豊郷波恵川	42. 28N 142. 07E
		2009. 2. 27	R: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		2009. 3. 10, 11, 28	〃	〃
		2009. 4. 2~5. 24	〃	〃
		2009. 6. 10	〃	〃
		2009. 10. 16~18, 23, 24	〃	〃
		2009. 11. 5, 17, 24	〃	〃
		2009. 12. 10, 20, 27	〃	〃
		2010. 1. 3, 10, 18, 25	〃	〃
2010. 2. 14, 18, 21	〃	〃		
2010. 3. 6, 7, 11, 14, 18, 25, 26, 29	〃	〃		
2010. 4. 5, 8, 12, 22	〃	〃		
15A-00358 (なし)	♀	2006. 10. 26	B: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		2006. 10~2007. 4	R: 北海道ウトナイ湖	〃
		2007. 10. 18~30	〃	〃
		2008. 4. 14, 18, 5. 7	〃	〃
		2008. 10. 14~2008. 12. 29	〃	〃

		2009. 2. 19	〃	〃
		2009. 3. 11	〃	〃
		2009. 4. 4~23	〃	〃
		2009. 10. 14, 23, 29	〃	〃
		2009. 11. 17, 24	〃	〃
		2009. 12. 20, 27	〃	〃
		2010. 3. 6, 10, 11, 14	〃	〃
		2010. 4. 5, 8, 12, 22	〃	〃
15A-00359	♀	2006. 11. 8	B: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
(緑5C24)		XI 2006-IV 2007	R: 北海道ウトナイ湖	〃
		2007. 11. 18, 19	*1 R: 山形県酒田市最上川河口	38. 54N 139. 50E
		2007. 12. 26	*1	〃
		2008. 1. 16	*1	〃
		2008. 3. 24	R: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		2008. 4. 5, 6	*4 R: 北海道千歳市長都沼	42. 53N 141. 40E
		2008. 4. 26, 5. 7	R: 北海道ウトナイ湖	42. 42N 141. 42E
		2008. 12. 14~2009. 1. 25	〃	〃
		2009. 2. 5, 18, 27	〃	〃
		2009. 3. 10, 28	〃	〃
		2009. 4. 2~5. 14	〃	〃
		2009. 10. 16-18, 23, 24	〃	〃
		2009. 11. 5, 17, 24	〃	〃
		2009. 12. 10, 27	〃	〃
		2010. 1. 3, 9, 10, 20, 25	〃	〃
		2010. 2. 14, 18	〃	〃
		2010. 3. 6, 25, 29	〃	〃
		2010. 6. 5, 8, 12	〃	〃

B: 標識装着日 R: 再確認日

沼で確認された。その後、再び4月21日にウトナイ湖で確認された(表3の*4, 図4参照)。

また15A-00351は2008年11月6日にウトナイ湖で足環No. 読み取りによって確認され、その後2009年4月27日に稚内市大沼で同様に足環No. 読み取りで確認された(表3の*5, 図1参照)。

4. 考察

ウトナイ湖でオオハクチョウは、秋には10月上旬に飛来し、湖面が結氷し始める12月下旬に本州へ渡り、一部ウトナイ湖に残留する。春には2月下旬に飛来し始め、5月初旬までに飛去する(山階鳥類研究所 1977~1989, 2002, 日本野鳥の会 2002~2010)。

標識鳥6羽の観察データから、ウトナイ湖で春と秋の渡りの時期に短期間しか観察されなかった個体(15A-00351)は、ウトナイ湖から飛去したと考えられた。

次に2009年6月10日に観察された2羽(5C25, 5C26)については、この時期がすでに渡り個体がいなくなった季節である。このことから2009年の夏季は北に渡らずウトナイ湖周辺に滞在した可能性があったが、この2羽は夏季にウトナイ湖で観察されなかった。ウトナイ湖は夏季に複数の飛翔不可能なハクチョウが越夏するがウトナイ湖に流

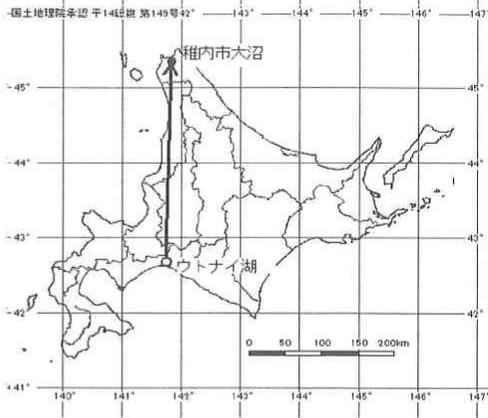


図 1. 15A-00351 の移動 (2006~2009).
Fig. 1. Migration of 15A-00351 (2006~2009).

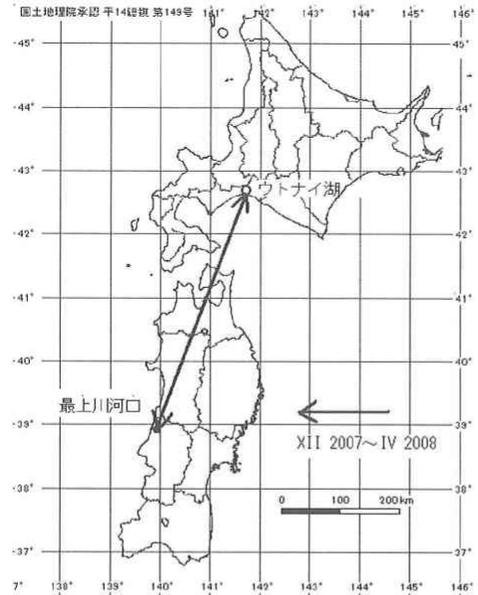


図 2. 15A-00353 (緑 5C26) の移動 (2006~09).
Fig. 2. Migration of 15A-00353 (Neck band green 5C26, 2006~2009).

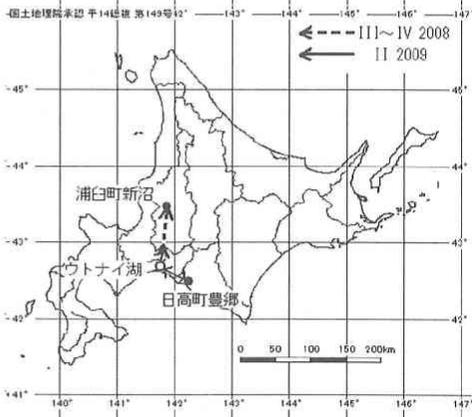


図 3. 15A-00357 (緑 5C25) の移動 (2006~2009).
Fig. 3 Migration of 15A-00357 (G5C25, 2006~2009).

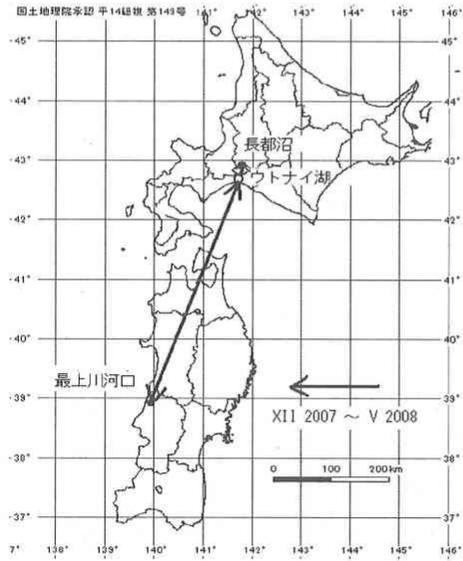


図 4. 15A-00359 (緑 5C24) の移動 (2006~2009).
Fig. 4 Migration of 15A-00359 (G5C24, 2006~2009).

れ込む河川やアシ原に入り込み個体の観察が困難な他、遠方ではこれら越夏個体との区別ができないことが多い(村上 2006). このため夏季ウトナイ湖にとどまったかどうかについては不明であった. その後、この2羽は2009年10月12, 14日にウトナイ湖



図5. 首環5C24の個体.

Fig. 5. Whooper Swan with neck band 5C24.



図6. 親子づれ.

Fig. 6. A family of Whooper Swan.

で再び確認された。

これらの結果からウトナイ湖で生まれたオオハクチョウは、春季に他のオオハクチョウとともに繁殖地へ渡った個体がいることが示唆された他、冬季にウトナイ湖より南へ渡った個体のあることが確認された。また夏季にウトナイ湖周辺にとどまる個体のいることも示唆された。

ウトナイ湖以外での観察例が少ない他、年によって行動パターンが安定しておらず、夏季ウトナイ湖での滞在状況が不明なため、ウトナイ湖で生まれた個体がどのように移動するのかを明らかにするには、これからも追跡調査が必要である。

5. 謝辞

調査に関しアドバイスをいただいた山階鳥類研究所の佐藤文男氏、施設を使用させていただいたウトナイ鳥獣保護センター、捕獲時に手伝っていただいたバンダーや鳥獣保護センターのボランティアの方々、宮島沼水鳥湿地センターの牛山克己氏、浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館の小西敢氏、東アジア・オーストラリア地域フライウエーパトナーシップにおけるガンカモネットワークのためのメーリングリスト(janet2ml)、観察情報をいただいた方にここで深く感謝申し上げます。

6. 引用文献

- 川崎慎二, 2003. ウトナイ湖におけるオオハクチョウの繁殖例. 日本の白鳥 (27) : 9-17.
- 村上速雄, 2006. ウトナイ湖の残留ハクチョウ. 日本の白鳥 (30) : 21-22.
- 日本野鳥の会, 2003. 2002年度苫小牧市委託白鳥類生息調査業務. 苫小牧市.
- 日本野鳥の会, 2004. 2003年度苫小牧市委託白鳥類生息調査業務. 苫小牧市.
- 日本野鳥の会, 2005. 2004年度苫小牧市委託白鳥類生息調査業務. 苫小牧市.
- 日本野鳥の会, 2006. 2005年度苫小牧市委託白鳥類生息調査業務. 苫小牧市.
- 日本野鳥の会, 2007. 2006年度苫小牧市委託白鳥類生息調査業務. 苫小牧市.
- 日本野鳥の会, 2008. 2007年度苫小牧市委託白鳥類生息調査業務. 苫小牧市.
- 日本野鳥の会, 2009. 2008年度苫小牧市委託白鳥類生息調査業務. 苫小牧市.

- 日本野鳥の会, 2010. 2009年度苫小牧市委託白鳥類生息調査業務. 苫小牧市.
- 山階鳥類研究所, 1977. 鳥類観測ステーション運営. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1978. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1979. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1980. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1981. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1982. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1983. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1984. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1985. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1986. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1987. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1988. 鳥類観測ステーション報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 1989. 鳥類標識調査報告. 環境庁.
- 山階鳥類研究所, 2002. 鳥類アトラス. 山階鳥類研究所.
- 山階鳥類研究所, 2009. 鳥類標識マニュアル(改定第11版). 山階鳥類研究所.